

グロービス経営大学院大学経営研究科経営専攻に対する認証評価結果の 付記事項に関する検証結果

I 検証結果

グロービス経営大学院大学経営研究科経営専攻（以下「当該専攻」という。）から提出された改善報告書等を検証した結果、2020年度の認証評価結果において、理論と実務の架橋を図る教育を提供するにふさわしい教員組織の編制（評価の視点3-8）が求められると指摘した件については、提言事項を踏まえて改善計画を策定していることを確認することができた。ただし、2021年度時点では計画の段階であり、計画の実行状況及び指摘事項が十分に改善されたことを確認する必要があることから、引き続き2022年度も当該専攻に対して、同様の改善報告書等の提出及び経営系専門職大学院認証評価委員会への報告を要請する。

II 総 評

（1）改善報告書等の提出要請の趣旨

本協会は、2020年度の「グロービス経営大学院大学経営研究科経営専攻に対する認証評価結果」（以下「評価結果」という。）において、実務家教員に偏重した教員組織となっており、理論と実務の架橋を図る教育に適した教員組織となっていないことを指摘し、適切な改善に向けた取組みを求めた。この点については重要な問題であることから、当該専攻に対し、本件に係る当該専攻の対応状況について改善報告書を取りまとめ、改善が認められるまで毎年提出するよう要請した。

（2）2021年度に提出された資料

当該専攻より、本件に係る対応状況に関する報告書として「改善報告書」及び改善報告に係る資料が提出された。

（3）本協会による検証内容

本協会は、上記の提出資料に基づき慎重に検証を行った。その結果、次のような状況が確認できた。

すなわち、当該専攻は、専門職大学院設置基準及び関連法令には研究者教員についての定義がないことから、当該専攻独自に研究者教員の定義を「一定の学位を有し、研究に関する知見・実績を有するか教育よりも専ら研究に時間を費やしている者」と定めた。この定義のもと、現在の専任教員が保有する学位や研究業績に基づいて研究者教員と実務家教員の区分を見直すほか、上記定義に沿った研究者教員の新規採用を行うとともに、現在所属してい

る専任教員の研究活動を促進することで、研究者教員の増員を計画している。研究活動を促進するにあたっては、「A I 経営教育研究所」及び「テクノベート経営研究所」を創設し、ビジネスの現場で必要とされている最先端の技術及びこれを用いたビジネス展開について研究できる環境の整備に着手し、独自の紀要を発行して、研究成果を発信する場を設けることを予定している。これらの取組みを通じて、専任教員に占める研究者教員の割合を 2025 年度までに 20%とする数値目標を掲げ、2030 年度以降に 50%となるよう努めるとしている。

(4) 本協会経営系専門職大学院認証評価委員会の検証結果

本協会は、上記の対応状況について慎重に検証した結果、当該専攻が適切な教員組織の編制に向けて研究者教員を定義するとともに、該当する教員の新規採用等を通じ、教員組織における研究者教員の比率を高めることを計画していることが確認できた。

ただし、現時点では計画を策定した段階であり、今後この計画に沿って実行する予定としているため、引き続き次年度も当該専攻に対して、本件に係る対応状況に関する改善報告書等の提出及び経営系専門職大学院認証評価委員会への報告を要請する。

以 上